



国際シンポジウム 身心変容のワザと哲学 2018年12月1日（土）



「身心変容技法」とは、「身体と心の状態を当事者にとって望ましいと考えられる理想的な状態に切り替え変容・転換させる知と諸技法」を指します。古来、宗教・芸術・芸能・武道・スポーツ・教育などの諸領域で様々な身心変容技法が編み出されてきました。たとえば、祈り・祭り・元服・洗礼・灌頂などの伝統的宗教儀礼、瞑想・イニシエーションや武道・武術・体術などの修行やスポーツのトレーニング、歌・合唱・舞踊などの芸術や芸能、治療・セラピー・ケア、諸種の教育プログラムなどです。

今回の国際シンポジウムは、これまでの「身心変容技法」研究の一つの結集・総括・区切りとして企画しました。本研究会ですでに何度か発表してもらった理論家・実践家を招いて、現象学的身体哲学、現代演劇、中国伝統技法、サーカス、能と修験道などを取り上げながら、「身心変容技法」の本質と構造と特性と諸相について、議論を深めたいと思います。関心がありましたら、ぜひご参加ください。

身心変容技法研究会代表：鎌田東二

*（無料・予約不要 直接会場にお入りください）



基調講演：

- ベルナール・アンドリュウ（パリ第5大学教授・身体哲学・現象学、フランス）「現象学からみた身心変容の哲学」
- レオニード・アニシモフ（演出家・ロシア功労芸術家、ロシア）「演劇における身心変容技法」
- 張明亮（気功家・峨眉丹道医薬養生学派第14代伝人・日本峨眉養生文化研修院院長、中国）「五臓の音符と身心変容技法」
- 奥井遼（同志社大学社会学部教育文化学科助教・臨床教育学・身体哲学）「サーカスと身心変容技法」
- 鎌田東二（上智大学グリーンケア研究所特任教授・身心変容技法研究会研究代表者）「能と修験道における身心変容技法」
- コメンテーター：アレクサンドル（パリ第5大学博士）

通訳（逐語通訳）：フランス語・ロシア語・中国語

*なお、各講演終了後、講演者全員参加で総合討論を行ないます。



日時：2018年12月1日（土）13時～18時
 場所：上智大学四谷キャンパス6号館101教室（ソフィアホール、800名収容）
 主催：上智大学・科研：身心変容技法研究会
 テーマ：「身心変容技法の可能性と限界」

